

光ミュージアム所蔵

# 美を立現う

肉筆浮世絵の世界



2023年

4/22<sup>土</sup>~6/11<sup>日</sup>

長崎歴史文化博物館  
3F企画展示室

開館時間:9:30~18:00(最終入場は30分前) 休館日:5/1(月)、5/15(月)、6/5(月)

観覧料: 一般[大学生以上]1,000円(前売800円) ※高校生以下無料

※15名以上の団体、長崎れきぶん友の会会員、身体障がい者手帳等、特定医療費(難病指定)医療受給者証等保持者は前売料金

前売券取扱窓口(※販売は4/21まで): チケットぴあ(Pコード686-411)、ローソンチケット(Lコード83793)、CNプレイガイド、セブンチケット(セブンコード099-830)、

メトロ書店本店(アミュプラザ長崎)、S東美プレイガイド、紀伊國屋書店長崎店(夢彩都)

主催: 長崎歴史文化博物館

共催: KTNテレビ長崎

特別協力: 光ミュージアム

監修: 鈴木浩平(美術史家)、故・永田生慈(美術史家・北斎研究家)

企画協力: アートシステム

後援: 長崎県、長崎県教育委員会、長崎市、長崎市教育委員会、長崎県立長崎図書館、長崎市立図書館、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、共同通信社長崎支局、NHK長崎放送局、長崎ケーブルメディア、エフエム長崎、長崎商工会議所、長崎県タクシー協会、長崎県観光連盟、長崎国際観光コンベンション協会



# 葛飾北斎、歌川広重、溪斎英泉、歌川国芳、月岡芳年ら82人の絵師による111点一挙公開!

## 光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界

江戸時代に人気を博した日本独自の芸術「浮世絵」。鮮やかな色彩で摺られた版画のイメージが強い浮世絵ですが、浮世絵師が筆をとり、直接絹地や和紙に描いた「肉筆浮世絵」は同一作品が存在しない貴重な一点物です。その多くは美人画で、華麗な衣裳の文様や二本一本が緻密に描き込まれる髪すじに、絵師の丹念な筆づかいを見ることが出来ます。

岐阜県高山市にある光ミュージアムの肉筆浮世絵コレクションはこれまで大々的に公開されることなく、その内容はベールに包まれていました。本展では、国内有数のコレクション約420点のうち、美人画を中心に厳選した111点の作品を一挙公開します。葛飾北斎や歌川広重、歌川国芳、月岡芳年など、各時代を代表する絵師に加え、京都や大坂の上方、さらには名古屋や九州といった各地方で活躍した多彩な絵師たちの作品を通して、江戸時代中期から明治時代にわたる肉筆浮世絵の歴史の展開をご紹介します。濃密で優美な浮世絵の世界をお楽しみください。



鳥園斎栄深・鳥君山  
「円窓の三美人」(部分)



歌川広重「月夜雁を聴く女」



溪斎英泉「立ち美人」(部分)



藤鷹「旅の女」(部分)



葛飾北斎「日 龍 月」



歌川国芳「縁台美人」(部分)

【関連講演会】 時間 / 14:00 ~ 15:30 会場 / 1階ホール 定員 / 70名 聴講無料・当日受付

### 「肉筆画で味わう美人画の魅力」

2023年4月22日(土) 講師: 鈴木浩平氏 (美術史家・本展監修者)

### 「肉筆美人画の夢とうつつ」

2023年5月13日(土) 講師: 中山喜一郎氏 (福岡市美術館総館長)

### てんじつのおはなしツアー ※要事前申込み(電話・インターネット)

2023年5月5日(金祝)、5月20日(土) 11:00 ~  
対象 | 幼児~小学校低学年、保護者の方  
定員 | 各日親子5組  
参加費 | 無料 会場 | 3階企画展示室



### かんたん落款(スタンプ)作り

2023年5月6日(土)  
① 11:00 ~ 12:00 ② 14:00 ~ 16:00  
対象 | どなたでも 参加費 | 200円  
会場 | 3階ロビー  
※随時受付(材料がなくなり次第終了)

### はぎれで手まりづくり

2023年5月27日(土)  
① 10:30 ~ 12:00 ② 14:00 ~ 15:30  
対象 | 小学4年生以上  
参加費 | 500円  
定員 | 各回12名  
会場 | 1階エントランス  
※要事前申込み(インターネット)



### 特集展示

## 「長崎の浮世絵・リターンズ」

会期: 2023年4月18日(火) ~ 6月18日(日)  
会場: 2階特集展示室(歴史文化展示ゾーン内)  
観覧料: 常設展観覧料でご覧いただけます。

長崎・鍛冶屋町出身の柳斎重春は大坂で浮世絵師として活躍し、三代目中村歌右衛門らの役者絵を多く手がけました。今回は2020年、会期半ばでやむなく閉室した展示をパワーアップしてお届けします。重春の華麗な浮世絵を通して見えてくる、長崎と歌舞伎の意外と深い関係とは?是非お楽しみください。



柳斎重春「越後獅子」(当館蔵)

